



娘と一緒に育つてます。

### 新生児誕生記念 ばら配布事業

新生児誕生記念にばらの苗をプレゼントしてもらえる、そんなステキな事業があるなんて全然知りませんでした。4月3日に娘の梓乃(しの)が生まれ、夫が出生届けを出しに市役所へ行った時にナイショで申し込んだらいいんです。すると、申請が一番早かったということで、鉢植えのばらは娘同様すくすくと育ち、今も美しい花を咲かせています。



暮らしの中にも、  
彩りを添えたい。



### 福山ばら祭

誰もが楽しみにしている福山最大のイベント。ばらに想いを寄せる人々のローズマインドが集まる日。会場ではローズウェディングも。みんなの心がひとつになって、見ごろを迎え、たばらとともに一斉に花開きます。

ばらへの想いから  
またひとつの輪が広がる。

### ばらグッズ

ローズマインドを広げたい。そんな思いから福山市では、毎年ばら祭の時期にばら関連グッズのアイデアを募集。「ばらグッズふくやまフレンズ」では、市と協働し、応募作品の認定や販売支援を行っています。認定する商品は毎年10数種。ばらグッズから、ふれあいの輪が大きく広がります。



正田洋子さん  
(ばらグッズふくやまフレンズ会長)



### ばら花壇コンクール

ばら花壇づくりを始めたのは2010年ごろから。たまたま栽培の講習会を受ける機会があって、楽しそうだなって思ったのが始めたきっかけです。地域の仲間たちと参加したばら花壇コンクールでは、石神社社の近くに200㎡の花壇をつくり、赤、白、ピンクなど、色とりどりのばらを200本植えて、「地域花壇の部」の最優秀賞を受賞しました。暮らしの中にも、見る人の気持ちを豊かにする彩りを届けたいという気持ちがいつそう高まりました。



大元義生さん、和子さん(石神ばら花壇代表)

このほか、町内会やグループではばら花壇のでき映えを競うコンクールやばらグッズの認定事業など、市民と行政がひとつになり、さまざまな取り組みを行っています。今までもこれからも、ばらのまちづくりとローズマインドが人々の心をつなぎ、まち中に花を咲かせ続けます。



甲斐高嶺さん

また緑町公園にあるばら花壇ローズヒルでは5年ごとに市民オーナーを募集。現在、4,000人が花壇に咲く5,100本のばらオーナーになっています。その「ばらオーナー会」の会長である甲斐高嶺さんは「子どもを対象にしたばらのスケッチ大会を開いたり、高齢者をばら花壇に招いてお茶をふるまったり。みんなで楽しみながらばらを育てる魅力を伝えたい」と目を細めます。



土井静雄さん

その後も市民が中心となったばらづくりはますます盛んに、「手間ひまかけて、愛情込めて手入れすれば必ず応えてくれるのがばらの魅力」と笑顔で語るのは「福山ローザリアンクラブ」会長の土井静雄さん。52人の会員が苗木の栽培や市民への栽培指導にあたっています。



### ばら公園

約1万5,000㎡の敷地に約280種5,500本のばらが咲き誇る公園です。毎年5月の「福山ばら祭」のメイン会場となります。

始まりは、  
1,000本のばらだった。



1956年、ばらの苗を植える住民

賞。85年にはばらを市の花に制定し、まさに福山のシンボルそのものになりました。その後市民が中心となったばらづくりはますます盛んに、「手間ひまかけて、愛情込めて手入れすれば必ず応えてくれるのがばらの魅力」と笑顔で語るのは「福山ローザリアンクラブ」会長の土井静雄さん。52人の会員が苗木の栽培や市民への栽培指導にあたっています。



石井稔さん

たくさんの市民がばらを育てるようになるなかで、福山市は68年に「全国美しい町づくり賞最優秀賞」を受賞。100本のばらを育てるのではなく、1本のばらを育てる100人をつくりたい。それが設立当初から変わらぬ会の目的と話します。57年にはばら公園の整備が着工。65年にはほぼ現在の姿になりました。

つなぐ、広げる  
一人ひとりの想い。

# 象徴という誇り。

「思いやり 優しさ 助け合いの心」を意味する福山の想い「ローズマインド」。その象徴といえるのが、「100万本のばらのまちづくり」です。人々の心に豊かな花を咲かせる活動の輪が広がっています。

「ばらのまち福山」



福山市ばらのイメージキャラクター「ローラ」

